

超世界の奥義

Supreme Master Ching Hai

ニューヨーク国連本部における英語の講演

一九九二年六月二十六日

みなさん、国連によるこそいらつしやいました。どうぞご自分の信仰の仕方と一緒にお祈りください。私たちが所有しているもの、与えられたものに心から感謝します。また、満ち足りていない人々も、私たち同様に与えられますように。世界の難民、戦争の犠牲者、軍人、各国政府の指導者、もちろん国連の指導者も望みが叶いますように。共に平和に暮せますように。

望んだものはすべて与えられると信じています。聖書にそうありますから。ありがとうございます。

今日の講演のテーマは、「超世界の奥義」です。この世界のことについては、みなさんすべてご存じですから、これ以上話したいとは思いません。知っての通り、この世界には国連があり、アメリカがあり、ニューヨーク（ビッグ・アップル）があります。けれども、この世界を超えて他の世界が存在するのです。ここに来たみなさん全員が知りたいと思っていることでしょう。それは先程私の弟子が話した神秘的な体験や、信じ難い幻想のようなものではなく、非常に科学的で論理にかなって、その上、非常に重要なものです。

私たちはみな、そのことについてさまざまな種類の宗教の聖書や經典で知っています。七つの天界、異なる意識のレベル、内在の神の王国、仏性があると述べられています。これらは超世界に関するものです。けれども、それほど多くの人が經典に明記されたこれらの境涯に到達するわけではありません。まったくいないとは言えませんが、それほど多くありません。世界の人口と比較しても、内在の神の王国に到達する人や、いわゆる「超世界を経験した人」は非常に少ないのです。もしあなたがアメリカにいるなら、超世界のことを書いた多くの本を読む機会がたくさんあるでしょう。アメリカ人が撮った映画はすべてがフィクションだというわけではなく、また、日本人が撮ったある映画も全部フィクションだということでもありません。そうした人々は、おそらく超世界から戻って来た人が書いた本を読んだことがあるか、あるいは、彼ら自身神の王国を垣間見たことがあるのかも知れません。

そうですね、神の王国とはどんな所でしよう。私たちはすでにこの世ですべき十分な仕事をもち、職業を持っています。安らげる家や愛する家族がいるにもかかわらず、なぜ神の王国のことが気になるのでしょうか。それはまさに、私たちはそれらすべてを得てしまったので、あとは神の王国を心配するだけになったからです。神の王国と言うと非常に宗教的ですが、実は、それはより高い、ある意識レベルのことを言っているにすぎません。ですから、古代の人々はそれを天国と言いますが、科学的に言えば、すなわち、高い

レベルの知識と智慧と言うことができます。方法がわかりさえすれば、私たちはそこに到達できるのです。

最近、アメリカではサマデーに入るための新しい機械が発明されたと聞きましたが、みなさんは使ったことがありますか。ありませんか。ないですか。アメリカでは今売り出し中で、値段は四百ドルから七百ドルですが、みなさんの望むレベルによって異なります。これはメデイーションをしたくないけれども、すぐにサマデーに入りたいという怠け者のための機械です。ご存じなければ簡単に紹介しましょう。

この種の機械は、あなたをリラックスさせ、精神状態をリラックスさせます。すると、高いIQレベルに到達できるそうです。高い知識と智慧をもたらしてくれるそうですから、とても素晴らしいと感じることでしょう。この機械は、特に選び抜いた何曲かの外在の音楽を使いますので、イヤホンが必要です。それから、弱い電流を流します。その刺激を受けて、わずかに閃光を見るらしいです。ですから、目隠しも必要です。イヤホンと目隠し、サマデーに必要なものはそれだけです。とてもいいですね。四百ドルはとても安いですが、けれども、私たちのサマデーは、もつと安く費用はかかりません。しかも、永続します。そして、バッテリーの充電や電気も必要なく、コンセントを差し込んだり抜いたりする必要ありません。機械の故障の心配や修理の必要もありません。

さて、たとえ人工の光と音楽でも、人々をこんなにもリラクセスさせ、賢くするのですから、これを使うはずです。私は新聞で読んだだけで、試したことはありませんが、そう思います。そういう理由で、非常にブームになり、売れ行きもいいそうです。こうした人工のものでさえ、私たちがリラクセスさせ、IQを高めることができるのですから、本物なら私たちの智慧に対し、どれほどの助けになるか想像できますか。本物は超世界のものですが、もし、それとコントラクトしたいなら、誰にも可能です。これが内在の天国の音楽であり、内在の天国の音なのです。この音楽、内在の音と光の強さに応じて、私たちは超世界へと押し上げられ、より深い意識レベルへ入って行けるのです。

それは物理の法則と同じだと思えます。ロケットが地球の重力から脱出する時、背後からの非常に大きな推進力が必要です。また、ロケットがとても速い速度で飛行する時にも、多少の光が放出されます。ですから、私たちが高速で超世界へ入る時も、何と言ったらいいのでしょうか。中国語の話しすぎですね。私たちも光を放ちます。ええ、いくらかの光で輝きますし、音も聞こえます。その音は振動力の一種で、私たちが高いレベルに押し上げます。騒音も一切なく、大した問題もなく、お金もかかりませんし、不快感もありません。これが超世界へ入る方法です。

私たちの世界よりも素晴らしい超世界とは何でしょうか。私たちが想像できるものと、できないものすべてです。いったんこれを体験すればわかります。私たちが以外の誰一

人、本当に話すことはできません。けれども、私たちはそれを根気よく持続させ、本当に誠実にならなければいけません。そうする以外、誰も私たちの代わりに体験することはできません。誰もあなたの代わりに国連での仕事をして、給料だけをあなたに受け取らせてりしないのと同じことです。同様に、あなたの代わりに食事をして、あなたを満腹にさせられる人などいません。ですから、修行は自分でしなければなりません。体験した人の話は聞けますが、そこからさほど多くの体験を得ることはできません。一回か二回、あるいは数日は体験があるかもしれませんが、それは神を体験した人のパワーによります。努力しなくても、とても自然に私たちは光を見、音を聞くかもしれませんが、多くの場合、それほど長くは続きません。ですから、私たちは自分で体験し、修行しなければなりません。

私たちの世界を超えると、たくさんの異なる世界があります。たとえば、私たちの世界よりも少し高い世界のことを、西洋の用語で「アストラル（阿修羅）世界」と言います。アストラル界だけでも百以上のレベルがあり、各レベルが一つの世界を創り、それが私たちの意識レベルを表しています。ちょうど私たちが大学に進むのと同じです。大学を卒業するまで、進級の過程でそれぞれの学年があります。それは大学の授業への理解度を表していて、徐々に卒業へと向かって行くのです。アストラル界では、たくさんのいわゆる超能力を目にするでしょう。そして、おそらく私たちはその超能力に誘惑され、それを得るかもしれません。そうすれば、病気が治せます。ええと、何と言ったらいでしょうか。

他人の見えないものが見えることもあります。私たちには少なくとも六種類の超能力があります。凡俗を超えた境界を見ることができ、時空の制限を超えた音を聞くことができます。私たちは距離の制限を受けません。これが、いわゆる天耳、天眼というものです。そして、他人の考えを見抜き、何を考えているかわかることもあります。時々、こうした力が得られるのは、私たちが神の王国の第一界に到達した時です。

この第一界にはすでに言いましたように、もっとたくさん異なるレベル、言葉では表せないたくさんのレベルがあります。私たちがそこに到達すると、たとえば、印心の後メディテーションをして、私たちのレベルが第一界なら、たくさんの能力が身に付き、以前にはなかった文化的な才能を発達させることができます。よろしいですか。また、他人の知らないたくさんのことがわかりますし、たくさんのものが私たちにもたらされます。多くの能力は天からの贈り物のようなもので、時には経済的に、時には、何と言いましようか、仕事上での智慧やたくさんの他のものであったりします。私たちは詩を書いたり、絵を描いたりできるようになり、以前できなかったことができるようになります。そのようなことができるのは、以前には考えもしなかったことです。これが第一界です。そして、私たちは美しい詩や文章が書けるようになります。これは一例ですが、以前はプロの作家ではありませんでしたが、今は筆を下ろせば文が書けます。これらは実に物質的利益ですが、第一界の意識レベルで得られます。実際には、これらは神の贈り物ではなく、本来私たちに備わっているもので、それに気付いただけのことです。気が付けばそれらは動き出

し、使うことができます。これが第一界のちょっとした情報です。

さて、より高いレベルへ行くと、たとえば、私たちはさらに多くのものを見たり、手に入れたりします。もちろん、時間の関係ですべてをお話しすることはできません。それに、ケーキやキャンディーや食べたことのないものまで、すべてのおいしいものについて聞く必要はないでしょう。ですから、私はほんの少しお知らせするだけです。みなさんがもし自分で味わいたいなら、また別の話です。私たちが、後で本物の食物を提供しましょう。ええ、みなさんがそれを食べたい場合だけです。

さあ、このレベルを少し超えると第二界へ行きます。「第二界」と呼ぶのは、ただわかりやすくするためです。第二界に行くと、超能力も含めて、第一界にいた時以上のたくさんの能力が身につきます。けれども、第二界で最も顕著に上達するものは、「雄弁さ」です。討論能力です。第二界に達した人に、口で勝てる人はいないでしょう。なぜなら、彼には優れた弁舌のパワーが備わり、その知力は最高に達しているのです。

普通の知力を持った、たいていの人のIQはとても単純ですから、この種の人を敵にすることはできません。その人のIQは非常に高いレベルに通じているからです。肉体の頭脳がより発達するだけではありません。それは神秘的な力、天の力なのです。私たちの内に本来備わっている智慧が開放されるのです。インドでは、このレベルを真智のレベルを

意味する、「菩提」と呼びます。菩提に到達したら、「仏陀」になります。「仏陀（ブツダ）」という言葉は、「菩提（ブツテイ）」からきています。ですから、仏陀のレベルは、まさにそういうことなのです。これで終わりではありません。まだあります。私はみなさんに仏陀だけを紹介するつもりはありません。もっとたくさんあります。ですから、たいいていの人は開悟した人を仏陀と呼びます。もし、その人がまだ第二界を超えていないとしたら、おそらく非常に傲慢になるでしょう。ええ、自分が生き仏であると自認し、弟子たちは彼を仏陀と呼び、誇らしく思います。けれども、実際は第二界に到達しただけなのです。それは、見ようと思つた人の過去、現在、未来が見え、完全な弁舌能力がついただけなのです。まだ、神の王国の終点ではありません。

ですから、誰もこの能力を自慢すべきではありません。過去、現在、未来が読めても、それは西洋の言葉で、よくご存じの「アカシック・レコード」にすぎないのです。ヨーガやある種の瞑想をしている人なら、みなそのことを理解しています。それは一種の図書館で国連にあるのと同じで、そこにはあらゆる言語が揃っています。アラビア語、ロシア語、中国語、英語、フランス語、ドイツ語など何でもあります。あなたの近くの図書館にも、すべての言語のものがあります。これらの言語がわかれば、その国で何が起こっているかがわかります。いいですか。ですから、同様に、第二界に到達した人なら理解できるのです。自叙伝を見るように、非常にはつきりと、その人の記録を解釈できます。

第二界の意識レベルではもっと多くのことが得られます。何はともあれ、第二界に達したのなら、大したものです。素晴らしいです。すでに生き仏です。なぜなら、「菩提」の智慧が開かれているからです。そして、形容し難い多くのことがわかります。望む、望まないにかかわらず、いわゆる、すべての奇跡が私たちの身に起こります。なぜなら、私たちの智慧が開かれたので、より高度な癒しと、私たちの生活をより順調にし、よくすることができるような手配を与えてくれる源と、どのように通ずるかがわかるからです。そして、私たちの知力、あるいは「菩提」の智慧が開かれたので、あらゆる情報にアクセスでき、過去や現在から必要なものを取り出して調整し、やり直し、私たちの犯した過去の間違いを清算することができます。わかりますか。間違いを正すのです。すると、生活はよくなります。

たとえば、以前は無意識に隣人を傷つけていたとしても、今ならわかります。いいですか。とても簡単なことです。もし、私たちが知らなかったとして、隣人が心の中で私たちに反抗していたことや、時には背後から私たちを傷つけようとしたりしますが、それは誤解か、あるいは私たちがその人に何か失礼なことをしたからです。でも今はわかるのです。その起こった理由がわかるのです。ですから、非常に簡単です。私たちは隣人を訪問するか、電話をするか、あるいは、パーティーに招待したりして誤解を解けばいいのです。同様に、私たちがいったん菩提のレベルを手に入れると、私たちは自動的に一切の事柄を理解し、無言でそれら进行处理します。また、私たちの助けとなるパワーの源と通じ

て、それら进行处理します。それで、私たちの生活はよくなります。人生でのたくさんの事故や望ましくない状況や不都合な条件などを最小限にします。わかりますか。そうです。ですから、第二界に到達したなら、それだけでもう素晴らしいことなのです。

ですから、私が説明することは非常に科学的で論理的なことで、そして、ヨーガや瞑想をする人を神秘的な人、あるいはE・T（異星人）だと考える必要はありません。彼らも私たちと同じ地球人なのです。ただ、かなり進んでいて、その方法を知っているのです。アメリカでは、何でもそのノウハウ（方法）によって話します。ですから、私たちは何でも学べます。違いますか。これは超世界の科学の一種で、これも学べるのです。非常に不思議な気がしますが、高いレベルになるほど単純です。私たちが高校や大学で学ぶ、非常に複雑な数学の問題よりも簡単なことです。

第二界にも異なるレベルがたくさんあります。私の言う意味は、第二界の中にも違ったレベルがたくさんあるということです。けれども、天国の秘密は詳しくは説明できませんので、簡単に紹介します。とにかく、天国へ行ったことがあるマスターに同行すれば、すべてがわかりますので、別に秘密でもありません。けれども、ご存じのようにそれは非常に長くかかります。必ず各レベルで止まるとしたら、たくさんのレベルにたくさんの付属のレベルがあるので、すべてを調べるとなると、非常に長い時間がかかります。ですから、時々マスターはみなさんを連れて、あるレベルから次々と素早く通り過ぎるだけ

にします。すばやくチャチャと。そうです。というのは、もしあなたがマスターにならないのなら、そんなにたくさんの方を学ぶ必要はないからです。そうでないと、頭が痛くなります。ですから、私はただみなさんをまっすぐに天国へ連れ帰るだけです。それでさえ、長い時間がかかり、時には一生を費やすこともあります。悟りはすぐ手に入りますが、それはほんの始まりにすぎず、入学手続きのようなものです。大学の入学手続きをすれば初日からすぐに大学生になれますが、まだ博士にはなれません。六年か四年後、あるいは十二年後によく卒業できるのです。もし、それが本場の大学で、あなたが入学したいなら、大学生になるのを本当に望んでいるなら、大学生にはすぐになれるのです。そうです。ですから、双方の協力が必要です。

同様に、もし私たちがこの世を超越したいのなら、たとえば、冗談ですが、私たちはニューヨークではもう他に行く場所はどこにもありません。マンハッタン、ロングビーチ、「シヨート」ビーチやどこのビーチもすっかり知り尽くしてしまいました。そこで、私たちは宇宙旅行に行って、何が起きているか見たいと思つたとします。いいですね。そうでしょう。私たちはフロリダのマイアミに、たくさんのお金を使って行きますが、せいぜい海水浴をするくらいです。それなら、なぜ、時にはこの世界を超えて違った世界に行き、隣の惑星がどんな様子か、その人々がどうやって暮らしているか見てみようと思わないのでしょうか。私はそれが不思議なことだとは思いません。そうです。ただ少しばかり遠い旅、心霊の旅で、肉体の旅に代わる精神の旅というだけのもです。

旅行には二つの方法があります。それは非常に論理的でわかりやすいものです。さて、私たちは第二界にいます。いいですか。第二界です。あと何を話しましょうか。私たちはこの世界にいながら、同時に他の世界の知識を得られるのです。わかりますか。それは旅行のおかげです。ちょうど、あなたがアメリカ国民、あるいは、世界のどこの国民であっても、いろいろな国を旅行すれば、隣国の状況がわかるのと同じことです。みなさん方国連の大部分の人は、アメリカ出身ではないと思いますが、違いますか。ですから、もうおわかりだと思いますが、同じことなのです。私たちも隣の惑星や他のレベルを理解するために旅行ができるのです。ただ、距離があまりにも遠いので、歩いて行くことも、ロケットを使っても、たとえUFOに乗ったとしてもたどりつけません。

UFOが飛べる範囲を超えるほど遠い世界もいくつかあります。UFOとは未確認飛行物体のことです。いいですね。私たちの内面にはどんなUFOよりも速く飛べる、ある装置があります。それは私たち自身の魂で、霊と呼ぶこともあります。私たちはこれを使って燃料なしで飛ぶことができます。警察もいませんし、交通渋滞や一切何もあります。アラブが石油を売らなくなる日を心配する必要もありません。なぜなら、それは自給自足できるからです。私たちが宇宙の戒律に背いたり、天国と地球の調和を乱したりして、靈魂にダメージを与えたいと思わない限り、決して故障もしません。それはとても簡単に避けられます。もし興味があれば、私たちがその方法をお教えしましょう。例をあげて簡単に説明しましょう。いいですね。私は牧師ではありませんので、ご心配なく。みなさんを

教会へ連れて行くことはしません。たとえ話をするだけです。

宇宙には知らなければならぬ、いくつかの法則があります。ちようど車を運転する時に、交通法規を知らなければならぬのと同じです。赤は止まれ、青は進め、車は左側通行、または右、高速道路での制限速度はどれぐらいかなど。ですから、物質的な宇宙には非常に単純な法則があります。わかりますか。私たちの世界、この物質的な宇宙を超越すると、そこには法則は存在しません。その時私たちは自由になり、自由人です。けれども、自由になるには、それを超越しなければなりません。肉体を持ち、まだこの世で生きている間は、できる限りこの法則を守らなければなりません。そうすれば問題は起きません。そして、私たちの乗り物はダメージを受けず、故障もなく、より速くより高く飛べるのです。

ですから、キリスト教、仏教、ヒンズー教の經典にはこの法則が書かれています。もっとも簡単なものは、他人を傷つけたり、殺したりしないという「不殺生」です。さらに、邪淫も盗みも許されません。また、飲酒も、今日の麻薬もいけません。おそらく、仏陀は二十世紀にコカインの類が発明されるのを知っていて、「麻薬もダメ」と言ったのでしよう。その中にはギャンブル全般など、頭脳に靈修の旅を忘れさせ、物質的快楽に執着させるものが含まれています。もし、私たちが安全に、より速く、より高く飛びたいなら、物理の定理のような物質の法則が必要です。ロケットを飛ばす時、科学者はいくつか

の定理を守らなければなりません。それだけのことです。いいですか。ですから、私たちがそれ以上に速く高く飛びたいのなら、ロケットやUFOよりも速く高く飛びたいのなら、もっと注意しなければなりません。みなさんが興味をお持ちなら、細かい点について印心の時にもっと詳しく説明することができます。今はこんな戒律でみなさんをうんざりさせたことはありません。みなさんは「もう知っています。わかっています。聖書で読みました。十戒のことですね」と言うでしょう。

実際、私たちの多くはこれらの戒律を読んではいても、それについて深く考えたり、深く理解したりしてないのです。おそらく、自分の見方で理解しようとしているだけで、真の意味で理解してないのです。ですから、当たり障りのないものになり、注意をうながしたり、より深い真意に再び耳を傾けさせたりしないのです。たとえば、旧約聖書の第一章で、神は「あらゆる動物を創造して、お前たちの友とし、お前たちを助けよう。お前たちは動物を治めなければならぬ」と言いました。また、動物のためにも、それぞれ異なる食物を創造したと言っています。けれども、動物を食べてもよいとは言いませんでした。そうです。神はまた、「私はすべての食物を創造した。野の草、樹の果実、いずれもおいしく、私たちの目を楽しませてくれる。これらがお前たちの食物となる」と言いました。けれども、この点に注意を向ける人はあまりいません。ですから、聖書の信奉者の多くは、いまだに肉を食べ続けています。神の真意を理解していないからです。

科学的により深く研究すれば、私たちは肉食には向いていないことがわかります。私たちの体の器官、胃腸や歯などすべて科学的には菜食のためだけに創られているのです。多くの人が病気になる、老化が早くなり、疲れやすく、いわゆる鈍くなるのも不思議ではありません。生まれた時はとても輝いて聡明であっても、日増しに鈍くなり、老いてますますひどくなっていくのです。それは私たちの乗り物、飛行道具のUFOを傷つけているからです。ですから、少しでも長く安全にこの乗り物を使いたければ、正しい方法で手入れをしなければなりません。たとえば、車を一台持っているとき、みなさんは運転しませんが、もし、ガソリンを入れ間違えたらどうなるでしょう。何が起ころうでしょう。おそらく数メートル走っただけで止まってしまおうでしょう。これは車が悪いのではなく、私たちのミスです。間違った燃料を入れてしまったからです。あるいは、ガソリンの中に水が混じっていたらどうでしょう。しばらくは走れても、たぶんすぐに故障してしまいます。また、オイルが汚れていても交換しなければ、少し走ってすぐに故障してしまおうでしょう。また、適切な方法で車の点検をしないと、爆発することもあります。そうですね。

同様に、私たちの体も、ここから永遠の地へ、非常に高い科学的智慧のレベルへ飛んで行ける乗り物のようなものです。けれども、私たちは時々それを傷つけ、正しい目的で使わないことがあります。たとえば、車は本来何キロも走って、私たちが会社に送り届け、友人を訪ね、景色のよい他の場所に連れて行ってくれます。けれども、手入れを怠ったり、間違った燃料を入れ、オイル交換をせず、冷却水やいろいろな手入れを怠ると、車はそれ

ほど速く走りませんし、長く使うこともできません。ただ、ちよつと芝生の中を走り、裏庭をグルグル回るだけになります。それもまたいいでしょう。わかりますか。けれども、それでは車を買った目的からはずれ、お金と時間とエネルギーの浪費になるだけです。そういうことです。あなたを責める人もいなければ、そのことで警察があなたに罰金を課すわけでもありません。本来なら遠くまで行って、たくさんのものを見て、いろいろな風景を楽しめたのですが、あなたはただ、自分の車とお金を無駄にただけです。

同様に、この肉体があるからこそ、私たちはこの世で生きていけるのです。ですから、きちんとその世話をしなければなりません。その体の中には、この世を超えて飛んで行ける別の道具があるからです。宇宙飛行士がロケットに乗っているようなもので、ロケットは彼の道具です。彼が物理の法則に背かず、ロケットの手入れをよくすれば、ロケットは安全に速く飛ぶことができます。けれども、中の宇宙飛行士が重要なのです。ロケットは彼を目的地に連れて行きますが、ロケットが重要なのではなく、宇宙飛行士と目的地が重要なのです。もし、ロケットがロングアイランドをグルグルと飛んでいるだけだったら、時間の無駄です。わかりますか。国費の浪費です。

ですから、私たちの体は貴重なのです。というのは、その中にはマスターが内在しているからです。聖書に載っているのはそのためです。それは、「お前が神の殿堂であり、その内に全能の神がいることをお前は知らないのか」と言っています。聖霊も同じことで

す。もし、私たちの内に聖霊や全能の神が宿っているなら、それがどんなにすごいことで、どれほど意味深いことなのか想像できませんか。けれども、多くの人はザツと読むだけで、この言葉の意味を理解せず、追及しようとしてもしないのです。それで、私の弟子は好んで私の教理に従うのです。私たちの日々の努力、つまり、お金を稼いだり、現実問題を解決したりすることは別として、内在するものを見つけ、超世界にあるものが何か理解できるからです。私たちの内側はより美しく、より自由で、より聡明なのです。それと通じ合う適切な方法を見つけさえすれば、すべてが私たちのものになるのです。もともと私たちに内在しているのに、その鍵のありかを知らないので、長いことその家には鍵がかかったままで、今ではこの宝物があることを忘れてしまっているだけなのです。それだけのことです。ですから、いわゆるマスターとは、私たちにその扉を開く手助けをし、本来私たちに備わっているものを教えてくれる人なのです。けれども、私たちは時間をかけてその中に入っていく、私たちが持っているものをつつとチェックしなければなりません。

さて、とにかく、今第二界でしたね。もつと前に話を進めますか。（聴衆答える。「はい、お願いします」）みなさん、楽に全部知りたいのですね。（マスター笑う）いいでしょう。少なくとも、たとえみなさんがその国に行つたことがなくても、そこに行つたことのある人はその状況を教えられますから。そうでしょう。少なくともみなさんは興味があつて、行きたいのかもしれないですね。はい。では第二界を後にしましょう。すべて話し終わつてはいませんが、おわかりのように、ここに一日中座っているわけにはいきませ

ん。第二界を過ぎると、私たちにはより大きなパワーが身につきます。もし、みなさんが決心し、努力すれば、第三界に行けます。

いわゆる第三界はより高い段階です。第三界に行こうとする人は、少なくともこの世での借金を完全に清算していなければなりません。わかりますか。もし、この物質世界の王に借りがあれば、私たちは上っては行けません。それは、ちょうどあなたがどこかの国の犯罪者だとしたら、その記録が残っているので、国境を越えて他の国に出て行けないのと同じです。ですから、この世界の債務の中には、私たちが過去、現在にしてきた、たくさんのごと他に、未来の物質的生活のものもあるかもしれません。ちょうど税関を通過するように、それらすべてを清算しなければ、第三界に行くことはできません。けれども、第二界にいる時から、私たちは返済し始めるのです。わかりますか。過去からのカルマと現在のカルマもいっしょに返済するのです。というのは、過去のカルマなしでは、私たちは現在に存在できないからです。

マスターには異なる二つのタイプがあります。一つは、カルマがないのに他人のカルマを借りて来る人。もう一つは私たちのように普通の人で、カルマを清算するタイプです。ですから、誰でも未来のマスターになれるのです。そして、時にはカルマを借りて、より高い世界から降りてくるマスターもいます。カルマを借りると聞いて、みなさんはどう思えますか。(マスター笑う) それは可能なのです。たとえば、あなたはここに来る前、

ずっと以前にここにいたことがありました。あなたは何世代も何百年の間、この世でいろいろな人と、与え、与えられたいことを繰り返して、やがて、あなたの住まいである天国に帰るのです。そこは非常に遠く、いろいろなレベルがありますが、少なくとも第五界に帰ります。その五界はマスターの住まいです。けれども、そこを超えてもたくさんレベルがあります。いいですね。

さて、ですから、私たちは慈悲のために、あるいは神の天命を受けて、再び戻って来たいと思うのです。たとえば、そうやって降りて来るのです。過去にこれらの人々と縁があったので、彼らから少しだけカルマを借りられたのです。彼らには借りがあるだけで、よい縁はありません。カルマを借りてきて、それを支払うのです。わかりますか。ゆつくりとスピリチュアルな力を使って、この世の使命を果たすまで支払うのです。ですから、これは別の種類のマスターです。もう一つは、この世界ですぐにマスターになるタイプです。ここで修行し、卒業してマスターになります。ちょうど大学に教授と学生がいて、学生が卒業後に教授になるようなものです。わかりますか。古くからの教授もいれば、卒業したての新興教授もいます。同様に、そういう種類のマスターもいるのです。

それで、今もし私たちが第三界に行きたいのなら、すべてのカルマの痕跡を絶対に消さなければなりません。カルマとは、「まいた種は刈り取らなければならぬ」という法則です。オレンジの種をまけば、オレンジを収穫し、リンゴをまけば、リンゴを収穫するということです。それがいわゆるカルマです。サンスクリット語でいう「因果応報」です。聖

書ではカルマについては触れていませんが、「まいた種は刈り取らなければならぬ」と言っています。これは同じことです。

聖書はマスターであるイエス・キリストの教えを短くしたのですが、とにかく、彼の生命も短いものでした。そのため、聖書には詳しい説明はありません。しかも聖書の多くの版は、当時のいわゆる指導者の政策に迎合して、検閲削除されてしまいました。必ずしもスピリチュアルな人々が関わってきたものではありません。あらゆる面で、人々は売買をしています。ブローカーです。生活のあらゆる面にブローカーが存在しています。けれども、ご存じのように本当の聖書は少し違って、もう少し長く、より厳密で、よりわかりやすいものです。とにかく、まあ、証明できないので触れないことにしましょう。そうでないと、神を冒瀆したと言われてしまいますから、証明できることだけを話すことにしましょう。

そうするとみなさんは、「では第二界や第三界、第四界の話をしたのに、どうやって証明するのですか」と質問するかもしれませんが、それは大丈夫です。証明できます。もし、みなさんが私と一緒に同じ道を歩けば、同じものを見るはずですよ。わかりますか。けれども、みなさんがこの道を歩かない限り、証明してあげられません。当然のことです。ですから、証明できるので、私はあえてこう言うのです。私たちには世界中に証明できる何十万の弟子がいますので、知っていることを言えます。たとえば、もし私たちが行こう

とする時、あなたは私と一緒に歩かねばなりません。そうしないで、「私の代わりに歩いて、すべてを教えてください」などとはいえないのです。それはできません。

たとえば、私が国連のこの会場に来たことがなければ、たとえば、あなたがこの会場について、どう説明しようとも、私には実体験がないことになります。そうでしょう。ですから、私たちは経験ある導き手と一緒に歩かなくてはなりません。この会場にはいろいろな国から来た弟子がいますが、彼らにはこういった体験があります。私が今話したことの一部、またはすべてを体験しています。そうです。そして第三界を超えても、これが決してすべてではありません。私が話したことはごく一部分にすぎません。ちよつとした旅行記にすぎず、みなさんに関連した一部分で、それほど詳しいものではありません。ある国についての本を読んだとしても、それはその国そのものではありません。そうです。ですから、世界にはさまざまな国の旅行ガイドブックがたくさんありますが、私たちはそれでも実際にそこへ行きたいのです。

スペインやテネリフェ島やギリシャについて知っていますが、それは映画や本からのものにはすぎません。私たちはそこに行かなければなりませんし、そこで楽しいことを体験し、出される食べもの、素晴らしい海、心地よい気候、親切な人々など、本では経験できないあらゆる雰囲気味わわなければなりません。

とにかく、もしあなたが第三界を超えたとしたら、次は何でしょうか。もちろん、より

高いレベルの第四界へ行きます。第四界は、はるかに桁外れのレベルです。簡単な言葉だけでは、世間の人にこの境界について説明できません。それは、その世界の主に失礼のないようにと思うからです。というのは、その世界は非常に美しいのですが、非常に暗い部分もあって、それは停電したニューヨークの夜より暗いのです。みなさん、都会の真つ暗闇を体験したことがありますか。ありますか。それよりも暗いのです。光に到達する前は、それよりも暗いのです。そこは一種の「禁断の都市」です。神の知識に到達する前に、私たちは暗闇に阻まれます。けれども、経験のあるマスターと一緒になら、そこを通過できます。さもなくば、その世界で私たちは道を見つけ出せません。

存在する惑星の別のレベルに到達すると、私たちは精神的だけではなく、肉体的にも、知的にも、生活全般が変化してきます。生命に対して違つた見方をし、違つた歩き方をし、違つた働き方をします。日々の自分の仕事にさえ、違つた意義が生じます。なぜ、こういうふうに住事をし、なぜその仕事にかかわり、なぜ仕事を変えなければならないのかわかります。生命の目的がわかっているので、もはや焦りや不安を感じたりしません。そうです。けれども、ただ穏やかに辛抱強く、この地上での使命が終わるのを待つのです。それは、私たちが次に行く所がわかっているからです。生きているうちにわかるのです。これがいわゆる「生きながら死ぬ」ということです。そうです。みなさんの中には、以前このようなことを聞いた人もいます。これが別々の説明ができるマスターを私は知りません。(マスター笑う) ただし、実際の内在の喜びは自分自身で体験しなけ

ればならないのです。たとえば、メルセデスベンツに誰がどう違った説明をつけられるでしょうか。でしょう。同じでなければいけません。ベンツを持っている人やベンツのことを知っている人は、同じことを言います。わかりますか。けれども、それはベンツそのものではありません。

ですから、私がごく普通の言葉でみなさんに話したとしても、それは普通のことではありません。自分自身で経験しなければならぬことで、努力と誠実さ、そして導き手が必要です。そうすれば、より安全です。一人きりの修行では百万分の一の可能性がなく、危険が伴います。リスクを伴い、結果が保証されることもなく、安全とは言えません。過去の人々、たとえば、スウェーデンボルグは自力で成功した人です。また、グルジェフもずっと一人で修行し、自力で成功したようです。けれども、その人たちのことを読んでみても、一人で修行するのは危険や多くの問題がなかったわけではありません。そして、必ずしも彼ら全員が最高レベルに到達するわけではないのです。

さて、その後はより高いレベルに行きます。第四界の後にはより高いレベルへと進みます。マスターの住まいである第五界です。すべてのマスターはそこからやってきました。たとえ、彼らのレベルが第五界より高くとも、彼らはそこに留まっており、そこがマスターの住まいになっています。第五界を超えると、そこには神のさまざま側面があるので、それは理解し難いことです。みなさんが混乱してしまうのではないかと心配です。で

すから、別の機会にお話ししましょう。あるいは、印心の後みなさんにもう少し準備ができてから、想像を絶するようなことをお話ししましょう。どうしても、時々神についての間違った概念が生じてしまいますから。

では、どんな質問でもよろこんでお受けしましょう。もし、退屈なら私をやりこめても結構です。私は喜んで答えますから。どんな質問でもどうぞ。はい。待つてください。いいですか。ダメです。マイクが来るのを待つてください。そうすれば話が聞こえますから。

(Mはマスターの答え)

Q マスターは人々のカルマを借りられるとおっしゃいましたが、その場合、借りた人のカルマを消せるのでしょうか。そのような人にはどんな影響があるのでしょうか。

M ええ、できます。もし、マスターがそうすることを選んだなら、どんな人のカルマも消すことができます。実際、すべての弟子が印心する時、過去のカルマのすべてが消されます。ただ、現世のカルマだけを残します。ですから、私たちはこの世で生活し続けられるのです。さもないと、すぐ死んでしまいます。カルマが無ければここでは生きられません。マスターは蓄積されたカルマだけを消さねばなりません。それでその人はきれいになり、今生のための少しのカルマを残され、今生ですべきことを果た

すのです。それが済めば終わりです。これが帰って行ける理由です。そうでなければ、どうやって帰れるのでしょうか。たとえ今生できれいだとしても、どれほどでしょう。前世はどうでしょう。わかりますか。そういうことです。いいですね。

M Q

ありがとうございます。とても知的な質問です。あなたは非常に注意深く聞いていたからだと思います。他にはありませんか。どうぞ。

M Q

修行の目的は何でしょうか。何が目的か、ですか。お話ししませんでしたか。それは超世界に思いを馳せ、神の王国に戻り、自身の智慧を理解し、今生でよりよい人間になることです。

M Q

では、カルマはすべてのレベルにあるのでしょうか。すべてではありません。第二界までです。なぜなら、私たちの頭脳のこのコンピュータは第二界の産物だからです。私たちははるより高い次元の世界から、あらゆる方法で、この物質世界に仕事をしにやって来ます。いいですか。たとえマスターであつても、第五界から物質世界にやって来るには、第二界を通らなければなりません、このコンピュータを着けなければ、この世界では働けません。海に潜るダイバーと同じです。酸素マスクなどすべての準備をしなければなりません。たとえそれが似合わなくても。酸素マスクやダイバースーツを身につけると、カエルのように見えません。このコンピュータと体が障害になることがあるのも同じことです。そうでな

M

そうです。何かを記録するコンピュータがないからです。私たちにカルマがあるのは、このコンピュータや頭脳があるためです。それは物質世界のあらゆる経験が記録されます。ですから、私たちにはカルマがあるのです。悪いこともよいことも、すべてここに記録します。それがカルマと呼ばれるものです。カルマとは何でしょうか。善悪の経験やそれへの反応、多くの生まれ変わりを通して学んだ経験のことです。私たちにはいわゆる良心があるので、よいことをすべきだとわかっています。時々悪いことをしてしまうのです。ですから、それをカルマと呼んでいるのです。その悪事

Q

ありがとうございます、マスター。第二界を通過する時、すべてのカルマを置いて行くか、あるいは解消し、きれいにするとおっしゃいましたが、それは前世のカルマと今生で犯したカルマのことですか。

ありがとうございます。マスター。第二界を通過する時、すべてのカルマを置いて行くか、あるいは解消し、きれいにするとおっしゃいましたが、それは前世のカルマと今生で犯したカルマのことですか。少ないですね。

Q M

隣の方。それとも、もっと話したいですか。いいですか。ええ、天使についてお伺いしたいのですが。天使のレベルは何でしょうか。

M Q

私たちが生まれる時に、その一生で到達できるレベルは決まっていますか。いいえ。私たちには速く走るか、ゆっくり走るか選べる自由意志があります。たとえば、あなたの車に百リットルのガソリンを入れたとします。私は車を運転しませんので、どの程度入るか知りませんが、かなり速く走れます。速く目的地に着けますし、ゆっくり行くこともできます。いいですか。あなた次第なのです。そうです。

これが私たちに重くのしかかります。ちょうど、たぐさんのゴミや荷物があると、重力の法則で下に引っぱられ、山に登るのが困難になると同じです。わかりますか。なぜなら、この世のたぐさんの道徳規範や、いろいろな国々のたぐさんの法律、風俗、習慣のために、私たちはこのいわゆる善悪、有罪と無罪という概念に縛られているのです。ですから、この世の人々と互いに影響しあう時に、私たちはその国の風俗、習慣、法律によって、善悪、有罪や無罪の経験をするのです。わかりますか。そして、それが習慣になり、あることをすると罪悪感を覚え、また、あることをすると悪い人だと思ってしまうです。それは、常にここに記録されます。それが私たちを輪廻転生させ、この物質世界に、あるいはもう少し高い世界に縛りつけているのです。それほど高い世界ではありませんが。私たちは上にフワツと昇って行けるほど自由でもなく、十分に軽いわけでもありません。わかりますか。それはこの概念、先入観のためなのです。

M Q M
天使のレベルですか。それはその天使の種類にもよりますが、
守護天使です。

ああ、守護天使ですね。彼らは第二界まで行けます。天使のレベルは人間よりも低く、威信も少なく、そこで私たちに仕えています。

彼らは第二界を超えないのですか。

M Q
超えません。人間にならない限り超えられません。彼らは非常に人間を羨んでいます。人間には神が宿っているからです。私たちには神と一体になるためのあらゆる装置がありますが、天使にはありません。非常に複雑なことなので、別の日に説明しましょう。彼らも私たちが使うために創られたものです。さまざまな天使がそうです。たとえば、天使が神によって創造されたものなら、私たちに仕えるために創られたのです。わかりますか。ですから、彼らは第二界を超える必要はありません。わかりますか。けれども、超えることもできません。時々、改良のために正しく調整できないものが創られることがあります。わかりますか。たとえば、あなたが家で快適に暮らすために何かを作ったとします。それがたとえ非常に素晴らしいものとしても、たとえば、そこに座ったまま、家や庭の明りや、テレビのスイッチをすべて操作できたとしても、それは自分のために発明したもので、あなたの役に立つだけのものにすぎません。それはある面では、あなたより優れています。ここに座って、すべてを制御できるようなことですが、人間の力ではできません。けれども、それはあなたよりも優れているという意味ではありません。わかりますか。それは、あなたに仕える目的で

作られたもので、たとえあなたより優れていても、あなた以上ではありません。いいですか。コンピューターは決して人間にはなれないのです。いいですね。

Q M はい、どうぞ。

マスターチンハイ、私たちには今、体がありますが、それは前世の過ちのために、解脱することができないということでしょうか。私たちは常にこのレベルにいるのでしょうか。あるいは、以前は別のレベルに、以前はより高いレベルにいたのでしょうか。それとも、このレベルだけでしょうか。さらに早く前に進むには、どのような態度や考えが必要でしょうか。

M

この体を離れて前に進むためにですか。その方法を知ればできます。この体を捨て去り、超世界に到達するには、たくさんいろいろな方法があります。あまり遠くへは行けないもの、非常に遠くまで行けるもの、終点まで行けるものもあります。それを比較するのに、私は若い頃からあらゆる探求をしてきましたから。今も若く見えますが、その時はもつと若かったのです。それで、私たちの法門が最高のもので、最も遠い境涯に到達し、終点にまで到達できます。他にもたくさん法門があります。もし、経験したいなら選べます。マーケットにはたくさんあります。アストラル界に行けるものや、第二界に行けるもの、もつと遠くの第三界や第四界へ行けるものもあります。第五界まで行けるものはそれほど多くありません。私たちが修行している法門は、あなたを第五界へ連れて行き、その後、あなたを自在にします。わかりますか。あな

たを一人で行かせるのです。そして、第五界を超越すると、私たちは神のさまざまな面に近づけますが、それは常に楽しいこととは限りません。私たちはいつも高ければ高いほどよいと考えますが、事実はそうでもありません。たとえば、私たちは時々美しい邸宅に行くことがあります。その主人の客間に招かれ、そこに座り、冷たい飲み物やおいしい物や何かをいただいたりします。そして、家の中をもっと奥までのぞいて見ようと思いついて行くと、不意にゴミが置いてある場所に出たりしますね。家の中にはさまざまなものがたくさんあっても、常に重要だとは限りません。でしょう。さらに建物の裏や屋外にある発電室に入って行って、感電して、そこで死んでしまうかもしれない。ですから、奥の方に行くことが必ずしも重要で、お薦めできることとは限りません。けれども、冒険のためならそうすることもできます。いいですか。

Q マスターチンハイ、二つ質問があります。まず、あなたに前世の記憶があるなら、それはどこから来るのでしょうか。次に、前世はどのようにカルマに関係するのですか。
M あなたの現在のカルマですか。あなたのカルマですか。

Q 現在のカルマと人の現在の考えです。それらは超過手荷物のようなものですか。
M ええ、そうです。非常に関係があります。最初の質問は、「カルマはどこから来るのか」ですね。

Q 前世の記録、そうです。

M

前世の記録は読むことができます。それは確かなことです。前世の記録のことはお話ししたように「アカシック・レコード」にあるのです。第二界の図書館のようなもので、誰でもそこにたどり着けた人なら入れます。誰でも国連の図書館に入れるわけではありませんが、私は大丈夫です。なぜなら、今日国連から講演に招かれているからです。そうですね。誰でも入れる訳ではありませんが、みなさんは入れます。この関係者だからです。ですから、同様に、私たちが第二界に到達した時は、前世の記録を読むことができます。第一界でも場合によつては、ある人の前世を垣間見ることができま

すが、それは高いレベルの完全な記録ではありません。それで、前世のこうした経験が現在のカルマにどう関連するかという質問でしたね。それは私たちが学んだ経験であり、私たちの現在の生活に対処するためだと言えます。わかりますか。あなたが前世で吸収したすべてが、現在の生活に影響します。同様に、前世であまりにも不愉快なことを経験していると、その経験に酷似した象徴的なものを見ると、あなたは非常に怖がります。たとえば、前世であなたが偶然に階段から落ちてひどいけがをしたとします。そこは暗くて、誰も助けてくれません。すると、今でも階段を降りる時、少し怖いと思うでしょう。特に長い階段で下の方が暗い時、あなたは降りようかどうかと葛藤するでしょう。あるいは、あなたが前世で、ある科学分野における何か専門的な研究をしていたなら、今生でも同様にそれに興味を感じるに違いありません。興味か・・・、これは中国語の早口言葉です。（笑い）私の英語はわかりますか。大丈夫ですか。（聴衆「はい」と答える）そうですか。ありがとうございます。ですから、たとえばあな

たが今科学者でなくても、やはりどんな科学研究にも心ひかれます。すべてがそういうことです。モーツアルトが天才だったのはそういう訳です。天才にしてピアノの才能を発揮し、有名になり、現在に至ってもなお有名です。彼は天才でした。それはマイスターになるまで何世代も音楽の練習をしていたからです。けれども、それで死んでしまったのです。わかりますか。彼の生涯で音楽的な頂点に達する前に死んでしまいました。ですから、生涯を閉じ、そのキャリアを捨てることに満足していなかったのです。音楽を愛していたからです。それで、彼は戻って来ました。過去の音楽的才能から学んだすべての経験が彼のところに戻ってきたのです。それは死ぬ時、音楽を続けたいと強く望んだからです。わかりますか。このような人々は、再びこの世に生まれ変わる前に、アストラル界や第二界から多くのことを学んでいます。ですから、彼らには生まれつき類まれな科学的、音楽的、文学的才能、あるいは各種の発明力があるのです。それは他の人が知らないようなことです。ある種の並外れた発明力で、他の人には理解できません。夢にも思いつかないような発明です。いいですか。彼らはすでにそれを見たことも、学んだこともあるからです。この世での学習と超世界での学習と、二つの方法があります。生まれながらにして才能のある天才のような人は、超世界、アストラル界や第二界のような世界から来た専門家なのです。時には、その人が戻る選択をした時は、第三界から来ることもあります。みな優秀で天才です。よろしいでしょうか。

Q 印心の条件は明確にはどういうことですか。印心をしたら、日々どのように修行したらいいのでしょうか。

M わかりました。まず、すべてが無料で何の拘束もありません。あなたが続けて修行したいと思う時だけ、自分を拘束する必要があります。条件として何の経験もいりません。事前にヨーガやメディテーションの知識も必要ありません。けれども、生涯ベジタリアンを貫かなければなりません。卵はダメですが、牛乳、チーズは大丈夫です。殺生しなければ、すべて大丈夫です。卵は半殺生になりますので、たとえ無精卵であってもいけません。ある種の否定的なパワーを引き付ける傾向があるからです。それで黒魔術や白魔術を操る人や、いわゆるブードゥー教の人は、卵を使って霊に憑かれた人々から、霊を引き出すのです。こうしたことを知っていますか。知っていますか。すごいですね。即刻開悟ではないにしても、即刻証明はありましたね。(笑い) 印心の時、あなたは神の光と音を体験します。いいですか。この神霊の音楽は、あなたを高い意識レベルに引き上げます。サマデーの体験、つまり深い安らぎと喜びを理解するでしょう。印心後、もし真剣なら家で修行を続けます。真剣でないなら、強要したり、これ以上面倒をかけたたりできませんから。あなたが引き続き修行し、あらゆる面で私の助けが必要な時だけ、助力します。そうしないなら、それまでです。毎日、二時間半のメディテーションをします。朝早く起きましょう。就寝前に二時間のメディテーション、ランチタイムに三十分、私がここで講演をしない時には、一時間のランチタイムは、どこかに隠れてメディテーションができます。すでにそれで一時間です。

ね。夜にあと一時間か三十分です。そして朝、一時間早く起きればいいのです。生活をもっと調整してみましよう。テレビや世間話、電話や新聞に費やす時間を減らせば、たくさんの時間を節約できます。実際、時間はたくさんありますが、時間を無駄にしています。ロングアイランドまでドライブする代わりに、裏庭を走っているようなものです。それで満足しますか。どうですか。他には何もありません。生涯を通して、あなたが自分に修行を課する以外には、何の条件もありません。修行を続ければ日々生活はよくなり、いろいろな奇跡を体験します。願わないのに自然に起こるのです。わかりますか。あなたが本当に真剣なら、地上での天国がどんなものか体験するのです。そうやって、何十万もの弟子が私について何年もずっと修行しているのです。というのは、彼らはどんどんよい体験をしているからです。本当に真剣に修行しているからです。

M はい どうぞ。前の方、それとも右後ろ…。男性の方、お先にどうぞ。（マスター笑う）

M Q 本性とは何でしょう。説明してください。

本性ですね、わかりました。説明するのは難しいですが、智慧を使えば想像できます。本性とは一種の智慧のことで、何かを前より理解し、超世界のことを知り、以前は知らなかったこの世のことを知り、わからなかったたくさんのことを理解することです。

Q

それが本性です。この本性、いわゆる智慧をいったん開けば、自分が誰か、なぜここにいるのか、超世界には何があるのか。私たちとは別の、この世の住人以外に誰がいるのか、本当にわかります。いいですか。たくさんのことがあります。意識のレベルとは一種の理解度の違いです。ちょうど大学を卒業するようなものです。学べば学ぶほど理解が深くなり、それで卒業していきます。これで満足でしょうか。抽象的なものは説明しにくいのですが、やってみました。これは一種の悟りのことで、説明するのは難しいのです。さらに違った高い意識レベルに到達すれば、その悟りも異なってきます。違った理解をし、違った感じ方をします。ただ確実に安らぎと平穏と喜びに満たされるのを感じます。何の心配もありません。日常生活のすべてのことがよくわかるようになります。前よりも物事を上手に処理でき、問題の解決も上手になります。物質レベルにさえ、すでに利益が及ぶのです。あなたの内面でどう感じるかは、あなたにしかわかりません。こうしたことを説明するのは、本当に難しいのです。あなたが愛する女性と結婚するようなもので、その感覚はあなた自身にしかわかりません。そうでしょう。他の誰にもわかりません。

敬愛なるマスター、ご教示ありがとうございます。もしよろしければ私の良心に感じていることについてお話しただけですか。今、地球上にたくさんのマスターがいるのはなぜでしょうか。彼らはすばやく学べる機会を与えてくれていますが、過去においてはとて難しかったのですか。そのことについて話していただけますか。

M

ええもちろん。現代の情報伝達はより発達していますので、私たちはマスターについて、より情報を得ることができません。過去にはマスターが存在しなかったとか、探し難かったということではありません。もちろん何人かは他のマスターより近づきやすかったのです。そのマスターの選択、自発的に伝法するかどうか、また一般大衆との縁によって違いました。けれども、いつの時代もだいたい一人から五人くらいのマスターはいました。その時代の必要性で決まるのです。ただ、私たちは以前よりも多くの異なったマスターを知っています。そのマスターのレベルもさまざまでしょう。というのは、現代は幸運にもマスメディアがあります。テレビ、ラジオ放送網があり、各種の書籍があります。無数の本をわずかな時間で印刷できるからです。昔は一冊の本を印刷するには、まず粗末な斧で木を切り倒し、小さく切らなければなりませんでした。しかも、その斧はすぐにダメになり、使いものにならず、石で研がなくてはなりませんし、いろいろ問題がありました。その上、一字一字彫っていかなくてはなりません。一組の聖書を運ぶには、護送隊がそっくり必要です。わかりますか。当時、トラックがあつたら大型が必要だったでしょう。ですから、私たちはたくさんのマスターを知っているのです。わかりますか。そうです。ですから運がいいのです。買える物ができるのはよいことです。欲しいものが選べます。「私が一番だ」と言ってみなさんをだませる人は誰もいません。みなさんは比較し、智慧を使い、聡明な判断を下せます。「これがいい」とか、「あちらの方が好きだ」「恐そうな顔だ」「あつちほみにくい」などと。

Q M

私の質問ですが、マスターは買物のお話をされましたが、すでに他のマスターに印心を受けている人にも印心を伝授なさいますか。

他の人より私の方がより速く、より高いレベルに連れて行けると、本当に信じている人だけに印心を授けます。そうでなければ、前のマスターから離れない方がいいでしょう。もし前のマスターに非常に執着し、深く信じているのなら、すでにそのマスターが一番だと信じているなら、代えないでください。もしまだ疑っているなら、私が言う光と音の体験をしていないなら、試してみるべきでしょう。なぜなら、光と音は真のマスターを計る基準になるからです。あなたに即座に光と音を分け与えることができないう人は、真のマスターではありません。申し訳ありませんが、そういうことなのです。天国へ通ずるためには光と音を備えていなければなりません。ちょうど、海に潜るのに酸素マスクなど装備一式が必要なのと同じです。別の目的のためには、それに合ったものがあります。そうですね。ですから、聖人にはみな後光がさしているのです。それがすなわち光なのです。この法門を修行すれば、あなたも同じ光を放ちます。イエスの絵にあるような光です。人々にはそれが見えます。超能力のある人にはその光が見えます。それで後光がさしているイエスを描いたのです。光に包まれた仏陀を描いたのです。もし、あなたの智慧が開いていけば、（マスターは額を指差す）レベルの高い修行者にこのような光があるのが見えます。多くの人に見えます。誰か見える人はいますか。あなたは何か見えましたか。

Q オーラが見えます。

M そうですか。でもオーラは光とは違います。オーラにはいろいろな色があり、時には黒、時にはコーヒースピー色、また黄色や赤などで、その時のその人の気分によって決まります。けれども、スピリチュアルなオーラが非常に強い人を見た時は、その違いがわかります。そうでしょう。

Q 質問ではないのですが、私は以前しばらくラージャ・ヨーガの修行をしていました。

M 私が見たのもオーラだったと思います。当時、私はあまり知識がなかったので、わかりません。

M わかっていただけですか。

Q 今は見えないのですか。時々は見えますか。

M 今は見えません。もうメデイテーションをしていませんから。

Q それでパワーがなくなってしまったのですね。またメデイテーションをすべきです。どうですか。

M はい。

Q もしあなたがまだその法門を信じるなら、メデイテーションを続けるべきです。多少はあなたの助けになっています。害ではないでしょう。いいですね。

Q 小冊子に五つの戒律とありましたが、いったん印心したら、五つの戒律を守らなくて

M Q M Q M

はならないのでしょうか。

ええ、そうです。それは宇宙の法則なのです。

私には邪淫をしてはならないという意味がわからないのですが。

もしあなたに夫がいるなら、二人目は探すなどいうことです。

はい、わかりました。（聴衆笑う）

非常に簡単です。あなたの生活を複雑にせず、もつとシンプルにして、感情的な口げんかをなくすのです。それは他の人の感情を傷つけるからです。私たちはたとえ感情的にも他人を傷つけません。そういう意味です。私たちは誰に対しても、感情的、肉体的、また精神的な争いや労苦を避けるよう努めます。特に愛する人に対してはなおさらです。それだけです。いいですか。すでに愛する人がいるなら、その人には言うてはいけません。言えば傷つけるだけです。ただ黙ってゆっくり解決して、告白してはいけません。なかには浮気をしたら、家に帰ってすべてを妻や夫に告白することが賢明で正直なことだと思っている人がいますが、それはばかげたことです。よくありません。あなたはすでに過ちを犯しているのです。それなのに、どうして家に残飯のゴミを持ち帰って、他の人に食べさせるのでしょうか。知らずにいれば、彼もそれほど苦しまずにすみます。わかりますか。真相を知ったら傷つきます。ですから、私たちは自分で問題を解決し、再び繰り返してはいけません。それだけです。このことはあなたのパートナーには話さない方がいいのです。パートナーを傷つけることになるからです。

Q 多くのスピリチュアルマスターには、素晴らしいユーモアがあると気付きました。精神修行とユーモアにはどんな関係があるのですか。

M わかりました。彼らは本当に幸せでリラックスしていて、あらゆることに達観しているからだと思います。自分や他人を笑うことも、この人生のばかげたことを笑うこともできます。多くの人が気を張って執着し、真剣にしがみついているものを笑えるのです。私たちがいくらか修行をすると、ただリラックスし、それほど深刻にはなりません。明日死ぬなら死に、生きるなら生きるということです。すべてを失ったら失つたで、それもいいでしょうし、すべてを得たなら、それも構いません。悟りを得ると、どんな状況でも自分の面倒を見るのに十分な智慧と能力が備わります。それで私たちは何も怖くなくなり、恐れたり、心配したりしなくなります。それでリラックスし、この世に執着を感じず、何を得ても失っても、もはや何の意味もなくなります。もし、たくさんのものを得たなら、ただ人々の利益のために提供します。愛する人の利益のためなら、私たちは自分自身や命でさえ重視しません。それを維持するために、あらゆる苦悩や苦痛をくぐり抜けたりしません。それを大切にすることは、もちろんよいことですが、それは私たちが一日中針のむしろで座禅するということではありません。私たちは仕事をしなければなりません。わかりますか。たとえば、私も仕事をしています。絵を描き、手工芸などで生活費を稼いでいます。誰からの寄付も受けません。私の稼ぐお金は人々を助けられるほど多額になることもあります。難民や災害の被災者やすべての人を助けることができます。いったいどうして仕事をしないのでしょうか。

私たちは多芸多才なのですから。悟った後は私たちの生活はもつと楽になり、何の心配もなくあります。わかりますか。私たちは自然とリラックスします。そうやってユーモアのセンスは生まれるのです。私はこう思いますが。私にユーモアのセンスがあるのですか。（聴衆「はい」と答える。笑いと拍手）そうですか。（マスター笑う）それなら、私もきつと何かのマスターなのでしょう。（笑い）いいでしょう。（マスター笑う）みなさんのためにもそうあることを望みます。悟りを開いていない人の話を二時間も聞く人はいません。時間の無駄です。いいでしょう 他に質問は。

Q マスターチンハイ、たくさんの質問が頭の中で溢れています。全部お話ししますので、いくつか答えていただけませんか。

M ええ、一〇八つの質問に答えましょう。

Q では、魂の探求のなかでも常に理論や話の筋は得られますが、あなたの意見をお聞かせください。まず、「私たちは誰か。私は誰か。なぜ家に帰らなければならないような苦境に追い込まれたのか」などです。私たちはどうやって家を離れたのでしょうか。また家に帰るのはなぜ重要なことなのでしょう。マスターは第五界に帰り、それ以上行くことが重要だとは限らないと話されましたが、それなら、その上に世界があるのは何のためでしょう。もし私が実際そこに戻る必要がないなら、その世界は私とどんな関係があるのでしょうか。こういった質問です。

M

わかりました。では一つずつ。まず、これらの質問群に答えましょう。「あなたは誰か。なぜここにいるのか。なぜ家に帰らなければならぬのか。なぜ第五界であつて、第六界ではないのか」ですね。簡単です。ユーモアが湧いてきました。(笑いと拍手)

「私は誰か」という質問に関しては、ニューヨーク州中の禅マスターの一人を訪ねて聞いてください。イエローページで捜せば見つかります。(笑い) それに関して私は専門ではありません。二番目の、「なぜここにいるか」ですが、たぶんあなたはここにいてるのが好きなのでしょう。私たちは神の子ですから、そうでなければ、誰も私たちを無理にここに留めておくことはできません。いわゆる神の子は神自身に似ていません。違いますか。王子は国王に似ています。ある面において、多少なりとも国王に、あるいは未来の国王に似ています。それで、彼はどこか行きたい時だけ、その場所へ行くのです。とにかく、私たちには自由意志があります。天国に留まるか、どこか他の場所へ行き、自分のために経験を積むか、選べるのです。おそらくあなたは必ず以前、最初にここにいることを選んだのでしよう。もつとスリルのある刺激的なものを学ぶためです。ハラハラするような体験が好きなのもいます。たとえば、王子は宮殿にいられますが、大自然の中を探検するのが好きなら、ジャングルの中を歩き回るに違いありません。そういうことかもしれない。私たちは天国では非常に退屈なのかもしれない。そこにはすべてが整い、サービスも充実しているからです。それで私たちは自分で何かをしたくなるのです。ちやうど皇室の人が自分たちのために料理を作りたくなるようなものです。従者の助けを借りず、全身ケチャップまみれになり、

あたり一面を油で汚してもそれが楽しいのです。見た目には少しも優雅ではありませんが、そうするのが好きなのです。たとえば、私には運転手がいいます。どこに行くにも、喜んで車を運転してくれるのですが、時には自分で運転したくなり、私は小さな無煙の三輪オートバイを運転します。充電して時速十マイルで、いえ時速十キロで走ります。そうするのが好きなのです。というのは、どこに行っても誰かに見られているので、時には誰も私を知らない所に行ってみたいのです。講演の時以外、私は非常に恥ずかしがり屋です。人々が私を掘り起こし、有名になってからは、講演は私の義務ですから、それほど頻繁には逃げ出せなくなりましたが、たまには逃げ出します。

二、三ヶ月とか、ちやうどわがままな妻が夫から逃げ出すように。それが私の選択です。ですから、あなたはたぶん、しばらくの間ここにいることを選んだのかもしれない。そして時間が来たので帰ろうと思っているのかもしれない。この世界からは十分に学んでしまったので、もう学びたいことは何もない、旅することに疲れたと感じたからです。休みたいので家に帰り、まず休息します。そして、再び冒険の旅に出るかどうか考えるのです。いいですか。今私が言えるのはこれだけです。それから、「なぜ家に帰らなければならないのか。なぜ第五界であって、第六界でないのか」ですが、それはあなた次第です。第五界を超えれば、行きたい所どこにでも行けます。その上にもたくさんレベルがあります。わかりますか。けれども、第五界は住むにはとても快適で、中立的な所です。もっと上に昇るとあまりにも力が強くなりすぎてしまい、しばらくは行ってみる事ができても、そこで休もうとはしないでしよう。

M Q M Q

たとえば、あなたの家がきれいでも、場所によってはトイレだったりして、そこでずつと休みたいとは思いません。あなたの家でさえそうなのです。あるいは、山は高い所ほど景色も美しくなりますが、そこには休む場所がないというようなものです。また、あなたの家の発電室は、発電機がうなり声をあげ、熱くて危険な場所です。ですから、あなたの家にとっても貢献している場所にもかかわらず、そこにいたいとは思わないのです。わかりますか。それだけです。神には私たちが想像できないほどたくさんの側面があります。私たちはレベルが高くなればなるほど、愛の力も強くなると思います。けれども、愛の力にもたくさんの種類があります。激しいもの、強いもの、穏やかなもの、中庸なものなど。それは私たちが受け入れられる程度によって決まります。神は私たちに程度の異なる愛を与えるのです。レベルが違えば、神からの愛の程度も異なります。いいですか。けれども、時にはあまりに強すぎて、引き裂かれるように感じることもあります。そうです。

私たちの周りでは環境破壊が多く目につきます。
確かに。

動物の虐待など。
その通りです。

Q この世からの精神的解脱をしたいという人々や、これらの環境に対抗する、すなわち彼らを取り巻くあらゆる破壊に対抗しようとする人々に対し、どのような考えをお持ち

M

ちですか。また、この世を超越するということは、私たちにとって置き忘れたもの
を思い出せば、それで十分だとお考えですか。あるいは、私たちにはこの世の苦しみを
軽減する義務があると思いませんか。また、そのために何かよい方法はありますか。
あります。あります。少なくとも私たちには良心がありますから。そうすれば、何か
をしていると感じ、同胞の苦しみを軽減させるのに最善を尽くしていると感じます。
私もまったく同じことをしています。あなたが尋ねたことは、すべて私がちょうど取
り組んでいることです。以前からやってきましたし、今もやっています。今後もやっ
ていくつもりです。すでにお話ししたように、私たちはいろいろな団体に、あるいは
いろいろな国の被災地にお金を届けたりします。こうしたことを自慢したいとは少し
も思いませんが、あなたが質問したのでお答えします。たとえば、去年私たちはフィ
リピンのピナツボ火山の被災者を救援しました。他にも、オウラック（ベトナム）や
中国の洪水被災者の救援をしました。現在は国連の負担を援助するために、オウラッ
ク難民の救済活動をしています。わかりますか。もし国連が私たちの援助を必要とす
るなら、何はともあれ、私たちは全力を尽くします。わかっていただけましたか。私
たちは金銭面で彼らの援助をしています。もし国連の同意があれば、彼らの住む所
を探すこともできます。わかりますか。ですから、あなたが要求したことはすべて行っ
ています。そのために私たちはここにいるのですから、環境をできる限りきれいにし
なければなりません。ですから、私たちは苦しんでいる人々を助け、世界の道徳基準
を、精神と物質の両面から向上させようと努めています。というのは、私から精神面

Q M

わかりました。
その力をどのように利用し、また利用した結果はどうなるかということなのですが、私の言いたいことをわかっていただけですか。

Q

覚醒に達するパワーを持っていると、人が気付くというレベルについてお話してくださいましたが、さて そのパワーには気付いていても、持っていることを知らなかったら、仮にそのパワーを持っていると思っただけで、それをどのように利用し、またどのように利用を控えるのでしょうか。もし利用しないなら、あなたの周囲で起こることによってどうやって耐えるのでしょうか。ある物事が世俗的なやり方でゆっくりと進められるのを目にした時、あなたは祈ることしかできないのですか。それとも、問題の改善や、早期解決のために何かをなさいますか。
（笑い）

M

わかります。わかります。あなたの言うのは、私たちには物事を改善する能力があるのに、周囲の物事が複雑になり、事がスムーズに運ばない場合、どうやってそれを我慢するか、ということですね。ただ神に祈るだけなのか、超能力でちよつと指を使い、ボタンを押すかのように物事を動かすかということですね。いいえ、とんでもありません。私には忍耐力があります。この世を混乱に陥らせないためにも、私たちはこの世のペースで仕事をしなければなりません。たとえば、子どもは速く走れません。あなたがいくら急いでも、走らせようと思ってもダメです。そんなことをしたら、その子はずまづいて転んでしまうでしょう。ですから、私たちは忍耐強くしなければなりません。たとえ私たちに走る能力があっても、子どもと共に歩くのです。それで時に私も欲求不満になり、忍耐が続かなくなります。自分に忍耐というものを教え込まなければなりません。そういうわけで、私は各国の大統領に、難民収容について一件一件お願いに行かなくてはならないのです。たとえ私たちが全財産を、数百万、数億を差し出したくても、複雑なシステムを通さなければなりません。「シーザーのものは、シーザーに与えよ」です。わかりますか。私は超能力を利用して国連を動かしたりはしません。そんなことはしません。物質的な超能力を使うと、この世に災難を引き起こしてしまいます。わかりますか。それは自然にまかせなければなりません。けれども、私たちはスピリチュアルな癒しと智慧と理解を用いて、人々の意識を向上させられます。彼らに、自ら進んで行い、協力し合うという知識を分け与えるのです。それが最良の方法であり、超能力を用いるべきではありません。私は今までに生活の中で

Q

意図的に超能力を使ったことは一度もありません。けれども、精神修行者の周りでは奇跡が起こることがあります。それは意図的ではなく、ごく自然に起こるのです。わかりますか。無理強いをすれば、何事によらず悪い結果になります。子どもは速く走れません。そうでしょう。私の答えに満足していただけますか。もしまだ満足していただけないなら、どうぞおっしゃってください。もう少し詳しく説明できます。私はみなさんがとても聡明であると信じています。みなさんは世界各国から選び抜かれてきたエリートです。ですから、あまり詳しくは説明しませんでした。他に質問がありますか。はい、その後ろの方。ところで、みなさんに言っておきますが、国連の存在は私たちにとって非常に有益です。まだ完全には除去できないとはいえ、私たちは世界中で起こるたくさんの衝突や戦争を減らしています。私は国連の本を読むと、私たち一人一人が国連の一員だと思います。私自身も国連の仕事をしています。人質救出の努力と能力に関して、みなさんをたたえなければなりません。誰も救出することができず、全世界の力を動員しても救出できなかったものを、国連の事務総長はやり遂げたのです。災害救助や難民などに関するたくさんの問題があり、みなさんは千二百万の難民の責任を担っていると聞いていますが、そうなのですか。仕事が山ほどあり、戦争やあらゆることがあるので、国連は非常に有益なのです。非常に有益です。

私たちに智慧をお分けくださりありがとうございます。マスターチンハイ、世界の人口増加に関する質問があります。それと共に、乱開発での環境破壊や食糧需要の増加

M

が問題になってくると思います。人口増加に関して何かお考えをお持ちでしょうか。これは世界共通のカルマですか。それとも、未来のカルマを作っていることになるのですか。

この世にとって人が多いのはとてもよいことです。悪いことではないでしょう。混み合っただけならば騒がしくなり、ますます面白くなります。実際、人口過剰が問題なのはなく、人口分布の偏りが問題なのです。世界のある特定の地域に人口が集中し、別の場所に移動しようとしません。それだけのことです。まだまだ、使用されていない未開墾の荒れた広大な土地がたくさんあります。手つかずの島々、広々とした高原など、そこには緑豊かな森林以外何もありません。たとえば、人々はニューヨークに好んで集まっています。(笑い) かなり面白い場所ですからね。もし政府が各地域に就業の機会を作り、雇用を確保すれば、人々はそこへ行き、その仕事に就くでしょう。彼らがここに集まっているのは、簡単に仕事が見つけられるか、安全だからです。もし、各地域の安全が保証され雇用の機会が整えば、人々はそこへ行くはずで、人々が生計と安全性を得ようとするのは、ごく自然なことです。ですから、人口過剰を心配する必要はなく、世界の人々がもっと有利な雇用機会と居住環境と安全保証を得られるようにすべきなのです。こうして各地域が同じになれば、人口過剰の問題はなくなりません。食糧問題については、あなたの方がご存じでしょう。なぜなら、アメリカにはどのように世界を保護するかに関する資料がたくさんあり、菜食は世界の資源を維持保存し、地球の全人口を養うに十分な最良の方法の一つだと述べられています。

私たちはあまりにも多くの野菜やエネルギー、電気や薬を無駄にして動物を飼育しています。わかりますか。人々がそれを直接食べることはできないものでしょうか。第三世界の多くの国では、高たんぱく質の菜食品を安い値段で提供していますが、これは他の地域の人口を助けることにはなっていません。食物を平均に分配し、菜食にすれば、それは私たち自身や動物のためだけではなく、全世界の助けとなるでしょう。ある雑誌の研究报告の中で、もし、誰もが、ええと何でしたっけ。前回の国連の講演ですでに話したと思いますが、忘れてしまいました。もし私たちが菜食にすれば、世界に飢餓はなくなるそうです。私たちは組織化すべきです。私はお米から栄養食品や乳製品さえ作り出せる人を知っています。前回こうしたことを話したことがあります。彼は「三十万ドルあれば、スリランカの六十万の貧しい人や、栄養不良の人や母親たちを養うことができる」と言っています。そうなれば素晴らしいことです。世界各地で進んでいる、天然資源の無駄使いが問題なのであって、食糧不足が問題なのでありません。神は私たちを飢えさせたりしません。そうしているのは私たちなのです。ですから、考え直し、組織を立て直さなければなりません。多くの国家政府の奨励が必要になります。真心と清廉さと気高い精神と、自身のためではなく、大衆に奉仕する意志があれば、私たちに恩恵をもたらすのです。あらゆる政府の奨励が得られれば、問題はなくなりません。本当になくなりません。私たちには優秀な指導者や優れた経済機構や人材管理、誠実な政府が必要です。多くの人々が、大多数の人が、あるいはすべての人が修行をすれば、この理想はもつと早く実現するはずで、彼らは教

Q

理を理解し、戒律を理解しているので、どのように誠実で清廉になるかわかります。自分の智慧の使い方もわかります。仕事をする時は周到に考え、私たちの生活も立て直すことができるでしょう。わかりますか。

M

それはとても難しいことだと思います。今日の多くの環境問題は、みな人口問題と関連しています。たとえば、人口が増加すればさらに多くの居住空間や家屋など、二十世紀の私たちにふさわしい生活方式が必要になります。ブラジルのジャングルでも、環境問題が起きています。森林破壊、熱帯雨林の破壊です。土地に枯葉剤が散布され、その結果水害が起きます。これと人口過剰の問題は互いに関係し合っています。そうです。世界のすべての問題がそれぞれ関係し合っています。唯一の解決法は根本から行わなければならず、枝葉からでは解決しません。根本は魂の安定にあります。わかりますか。（拍手）ですから、私たちがすべきことは、この魂のメッセーヂを広めることであり、人々に欠けている精神的な戒律を遵守させることです。もちろん電子器具を使えば、少しの光と耳鳴りのような音楽の体験をすることができ、サマデーも得られるでしょう。けれども、もしあなたに道徳的規律がなければ、時には力を悪い方面に使用し、コントロールできなくなることもあります。わかりますか。ですから、私たちのこの団体では、まず人々に戒律を守ることを教えます。戒律は非常に重要です。私たちはこの力をどんな所に使うかを知らなければなりません。愛や慈悲や正しい道徳感がなければ、たとえ力があっても役には立たず、それは黒魔術になり

悪用されてしまいます。黒魔術はこのようにして生まれます。わかりますか。ですか。ら、「悟りを得る」のは簡単ですが、「悟りを維持する」のは難しいのです。私たちの法門では戒律をきちんと守らず、道徳的に欠けてくると、マスターが部分的にそのパワーを取り去ることができません。そうすれば、それを悪用し社会で悪事を働くことはできません。わかりますか。他の法門とそこが違います。マスターがコントロールできるのです。マスターパワーです。いいですね。みなさんの知的な質問をとてもらうれしく思います。本当に知的ですね。人々がこういうことをするのは智慧が不足しているからです。あなたの指摘した土地濫用の件も、ただ彼らに智慧が欠如していることと関係しています。ですから、その根本的な解決法とは、智慧と魂の修行をすることです。悟りを開きましよう。よろしいでしょうか。これで終わりにしなければなりません。ご静聴ありがとうございます。みなさんのご幸運をお祈りします。仕事や願いや夢、日々の目標に神の恵みがありますように。これで失礼いたします。ありがとうございます。